

「全鍍連」 2022年 3月号 悠々自適

全鍍連 顧問 遠藤 清孝 (有朝日鍍金工場 代表取締役)

「世の中の大事なことの大体は居酒屋で決まる」



「世の中の大事なことの大体は居酒屋で決まる」

かつて愛知県神谷篤理事長から聞いた言葉だ。まさに言い得て妙な言葉だ。

会議での議論より場所を移した飲酒を伴う2次会での活発な意見が、決定に際して少なからず影響を与えているケースは少なくない。私自身も前々から感じていたことだ。これまで全鍍連の会議においても忖度してストレートに自分の意見を言えない場面が幾度となくあった。ここで何か言って会議を長引かせるより、早く場所を変え、そこで発言しようという気持ちは常に持ち合わせている。埼玉県組合の元気一杯の若手のように積極的に自分の意見を言うことはなかなか出来るものではない。会議の最中から、終わった後の2次会ばかりに思いを巡らせているといいかもしれない。

どうもこの思いは実は私だけではないように思う。場所を移した2次会では、あの人もこの人も、ひとたびお酒が入ると、出てくる出てくる、様々な意見が飛び出し始める。「なんでさっきの会議の席で言わなかったの?」と思わず突っ込みを入れたくなってしまう。「俺も前からそう思っていたよ」「それはちょっと飛躍し過ぎじゃーない?」と会話は大いに盛り上がる。現状を変える思いがけないひらめきはこうした場所から生まれるものではないだろうか。ところが現在はこのコロナ禍だ。リアルな会議が開催できずオンライン会議が主流になっている。とても2次会や居酒屋に場所をうつすどころの話ではない。

昨年末、「混迷を深めるめっき業界の明日を考える会」が大阪で開催された。コロナ新規感染が沈静化しているこの時期を逃すまいと歴代会長や現副会長を含む錚々たるメンバーが大阪に集結した。非公式の集まりだが、これだけの志の高いメンバーが集まれば気合は十分すぎるほど入る。夜遅くまでとことん議論を重ねた。お酒が進むにつれ、それぞれがヒートアップし立ちあがって自分の意見を主張する場面も多くなって来る。みんなの真剣さがビリビリ伝わってくる。誰かの名言に「そうだ! そうだ!」と手を打ったり、指を差してお腹を抱えるような場面も続出する。それにしてもこの感じはいつ以来だろう。これまで当たり前であった風景がまさに復活しているのだ。さらにお酒が進むと、話がもっとあっちこちに飛ぶようになる。論点から外れた話が展開し、いい加減にしろよと思うが不思議なことにいつの間にか話が元に戻っている。そして気がつくとも最後は次回につながる“本日の結論”が生まれているのだ。

うーん、なるほど、これこそまさに「世の中の大事なことの大体は居酒屋で決まる」